



平塚ロータリークラブ 週報

Hiratsuka R.C. Weekly



ロータリーは
機会の扉を開く

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

会長：鳥山 優子 副会長：清水 雅広 幹事：江藤 博一 クラブ会報委員長：葛西 敬

例会日 毎週木曜日 12:15～13:30

会場 グランドホテル神奈中 2F

事務局 平塚市松風町 2-10 平塚商工会議所内

連絡先 0463-23-5955 (事務局)

2021年 6月 3日 第 3313 回 週報第 3313 号

本日 6月 3日	会員数 61名	対象者 60名	出席者 45(45)名	出席率 75.00%			
前々回 5月 20日	会員数 61名	対象者 60名	出席者 41(41)名	出席率 68.33%	MUP 4名	計 45名	修正率 75.00%

会長報告

みなさんには人には言っていないけど、実はこっそりやっていることはありますか？私にはあります。それは、コロナ前のことですが、飛行機や新幹線での日帰り旅行です。日帰り旅行というと、「また鳥山さんの趣味の話か」と思うかもしれませんが、そうではありません。実はこれ、私の奉仕活動なんです。

きっかけになったのは1995年。阪神大震災です。私は当時ロータリアンではありませんでしたが、テレビを通しての神戸の悲惨な状況を見て、何か自分でできることはないかと考えていました。そこで神戸に住む知り合いに「ボランティアなど何か手伝えることはない？」と聞きました。すると知り合いは「そんなことより街に来て欲しい。街に来てお買い物をしてくれるのが地元を助けることになるし、それが一番ありがたい」と言いました。それから私は困っている地域があれば、その土地へ行き、観光をし、地元のものを買って、地元のお店で食事し、その日のうちに帰ってくるということをするようになりました。

東日本大震災の時は仙台に、首里城火災の時は沖縄に行きました。仙台では、建物の構造部分がむき出しになり、津波の跡を目の当たりにして恐怖を感じました。首里城では、今にも崩れ落ちそうな屋根瓦と、いまだ残る建物の焼け焦げた臭いを感じ、沖縄の方々の悲しみに触れました。

私ひとりが行ったところで大した奉仕にはならないかもしれませんが、しかし、この目で現地がどうなっているのかを確かめ、少しでもいいから地元の人々の気持ちに寄り添うことが、奉仕活動の本質ではないかと私は思っています。今はコロナ禍でこうした活動はできませんが、寄付や募金以外にも、私たちができることはたくさんあるはずですよ。例えば、今ならインターネットを使って地元の名産を取り寄せることもできます。一人で食べきれなかったら、誰かに配ってもいいでしょう。

ロータリアンとして超私の奉仕を実践するためにはどうすればいいか。そのために、今回の話が少しでもお役に立てれば幸いです。

下期情報集会報告会

テーマ

「コロナに負けるな！
コロナ禍でも会員拡大・出席率の向上を図るには」

赤グループ

グループ幹事：原田篤志幹事
参加者：柏手茂／升水一義／
元吉裕員／鈴木忠治／菅沼久志／
今村佳広／原田篤志



元吉会員：落ち込みなし、会社関係各々紹介活動も戻ってきている大手が多いので営業活動が出来る

柏手会員：プラス面、インターネット需要が増えた
マイナス面、光ファイバーへの切り替えなど
コロナが落ち着くまで延ばされる
トータルではマイナス面が多い、活動制限を

ほかの方法でリカバー

升水会員：店頭での感染予防を行っている、商店街に人が歩いていないので、昨年の方がマスク需要のあり良かった、生活必需品の必需品であるため来ていただいている

鈴木会員：コンビニ経営なので昨年は大きく落ち込む、今年は昨年よりは良いが一昨年から10%程度マイナス、昨年5月オープンの店舗は最近トントンになってきた

今村会員：飲食店は営業自粛
建設は公共事業なので影響なし、平塚市は学校の大規模改修が止まったが発注金額は減っていない、県も減っていない

社員で1名感染をしたがクラスターにはならなかった、下請けなどで感染事例はあるがPCR検査の結果で現場が止まることはなかった

菅沼会員：貸出が増加、社会的意義もあり需要にこたえ

る、平塚はコロナに強いと思う、前任が渋谷だったので多店舗展開の飲食店やアパレル関係が多かったので、影響を受けるのが多かった
 原田会員：クライアントの借入・給付金などの資料提供が増えているので忙しくなる、確定申告の期限が延びたので対応が出来た、クライアントの全体では収入は減っているのでこの先が心配

るので説明も必要ではないか

橙グループ

グループ幹事：大島圭吾幹事
 参加者：堀康紀／鳥海衡一／飯塚和夫／柳川正人／前田孝平／大島圭吾



学校や団体の先輩後輩の勧誘で入会するケースが多い
 上場企業や金融機関の入会を探っては？経済団体の部会などで関係構築⇒勧誘

各カラーのチームで1名ノルマのように呼び込むのも手ではないか

他団体（法人会など）との交流は？

賛助会員を増やす

Youtubeは非常に良かった。SNSはもっと活用すべき

Zoom例会の併用も助かる

活動の宣伝チャンネルを増やせないか？自然と入会する仕組み作り ⇨ステイタスとの兼ね合いあり

一方で

少数精鋭でもいいのでは？何人になったらいいのか？

何の為に増やすのか？イメージが湧かないとの意見あり

A.

職業奉仕を行う、組織を維持していくには一定の人数は必要。当ロータリーはピーク80名程度。最近は一定を維持している＝勧誘活動を行っているから

※入会からの経過年数によって人数の印象が違う

当ロータリーは嫌で辞める会員が少ない＝特徴・伝統として継続していきましょう

卓話の録画対応が出来ないか あると便利

黄グループ

グループ幹事：志村拓幹事
 参加者：又城雅弘／清水孝一／清水雅広／常盤卓嗣／秋山智／馬上晋／瀬尾光俊／渡邊美和／事務局吉野



■意見のまとめ

コロナ禍で社会全体が厳しい中、会員拡大に注力するだけでなく、平塚ロータリークラブの良さや強みを活かしたクラブ活動の重視、会員間の相互交流促進を進めることで活動を充実させ、そこから発せられるクラブの魅力の再認識が大切ではないか、という意見が多く出ました。

会員拡大については、活動の充実を図ることを基盤とし、外への活動や情報発信を行うことで、来たるアフターコロナのタイミングでの拡大フェーズへと進めていくのが良いのではないかと考えます。

○ 会員拡大の方法

コロナの影響での退会はないがやむを得ない退会もある、年4～5人は増強をしたい

業種が違う人の意見を聞けるのがメリットなので、例会や個別で聞けるような関係を築けるかが大事、その中でお互いに仕事になればよい関係になれる

他業種を含めた広い知識を得ることができる、地域社会か国際奉仕を全面に出してそうした活動を理解していただける人の増強が出来ればよい

コロナの状況でも支えあえる会員でありたい

業種を考えて足りない業種にアプローチをした方がよい、本来のロータリー活動良いところに異業種交流があるので、この業種区分も700種程度あるので絞り込みが必要である、以前は1業種1社であったので、入れるステータスがあったが現在は他の団体との区別が出来なくなってきた

本来の目的（異業種交流・社会奉仕など）を上手に魅力として伝える

奉仕＝ボランティアではない、職業奉仕は仕事をしてその仕事に対する価値を対価として受け取ることにより等価交換の対価を得る、この利益の中から社会奉仕として還元をする、このことにより全体が良くなって企業・個人・社会の3方良しとなり継続できることが重要、ロータリーで職業分類にこだわるのは職業奉仕の重要性を重視しているからである

自社が良くなって初めてロータリー活動が出来る、ロータリー活動により個人の資質が向上し自社に還元できる、このロータリー活動により社会が良くなる！4つのテストに集約されている

○ 出席率向上の方法

楽しくないと出席しないから楽しくなるようにしていく
 コロナ禍ではあるが出来る範囲で親睦を充実させお互いに話せる環境を作っていく

食事もしみのも一つであるのでメニューの偏りがないようにしたり、容器も変えたりカレーなど見て想像が出来ない方がよい

卓話も参加したくなる要素なので聞きたくなるような見せ方をして、発表者・タイトル以外にも魅力が伝われば興味をそそるのではないか

席の固定もあつたが交流できる環境があつた方がよい、年1回でも入口での抗原検査など万全の対策をして交流できる環境でやる

時間も昼食だがたまには夜など時間を変更して開催する工夫もあつてよいのではないか、社会も多様性を重視しているのでいろんなことをやってみるのもよい

ロータリーは人間関係なので紹介者から誘うなど誘い合っていくことが必要

委員会活動が制限されているがきっかけがある方が出やすいので役割を作っていくことが重要ではないか

時間の都合が難しい人はメイキャップもあるので推進していく、やり方など具体的な方法がわからない人もい

■主なご意見

○会員の相互理解、情報交換の促進、クラブの伝統や強みを活かした例会・事業の充実

現在は会員の人柄や事業を聞ける機会は新規入会時の卓話が多く、知る機会が少ない。

会員が、自身の事業やそれに紐づく業界/最新の情勢を伝える機会であったり、企業人職業人としての大先輩である先輩会員の貴重な経験談などを聞ける機会は貴重である。

職場訪問などの機会を設けるのも大変良いことではないか。

○平塚ロータリークラブを通じて外部にも目を向ける

平塚ロータリーの持つ歴史と経験、それを通じて、さらに外にも目を向けていくべき。

地区レベルで活躍する機会もクラブとしてどんどん増やしていく。

コロナ禍であるからこそ萎縮しないで外に向かっていく。外部と協働したり、外の力を活かし拡大していくことも大切。

オープンであること、多様性をもった活動であることも意識したい。

例) 女性の視点や全国に支店を持つ企業のネットワークの活用など

○発信していく事の大切さ

歴史ある多彩な活動、地域で活躍する企業人職業人である会員の方々…そのような強みを持つ平塚ロータリークラブの魅力を発信や発信の場作りは意識的に続けていくべき。

奉仕プロジェクト委員会の鳥の巣箱作りのYouTube配信などは非常に良い例で、オンライン等を活用し、できるだけそのような機会を創り続けていくことが大切。

○最後に、リアルな活動の充実が第一!

良い意見を出し合ったり、議論を重ねて事業を推進していくことは、オンラインだけではなかなか不向きである。

ロータリークラブの活動は、ライブ・リアルな空気感の中での充実がやはり基本。

一方で、オンラインなどのテクノロジーの進歩は是非どんどん積極的に取り入れて使いこなしていきたい。

このような情報集会など「リアルな場を充実させる」な意識や、イベントの機会に積極的に参加する、それによって人のつながりが増えていくのが、ロータリー活動の第一であり、魅力である。

緑グループ

グループ幹事：守屋宣成幹事

参加者：成瀬正夫/片野之万/
白石慎太郎/市川雅範



●話し合いの内容

緑グループは5月27日に相山会員のアッシュエムにて行いました。こちらも感染対策をとりながら、少しお酒も頂きながら、楽しく進めさせていただきました。

○拡大について

まずは会員の医療系が少ないと感じます。過去はお医者様が各科在籍していたような時期が、ありました。コロナ禍で大変ですが、落ち着いた時期に勧誘して行っても良いのではないかと。会員の業種で、どの業種が少ないのか? 戦略を立てるのも良い。

つながりから声をかけていくことが大事なので、それぞれの持っている情報を吸い上げて、リスト化してみてはどうか。1人の会員だけでなく、違う会員が仕事でお会いしたときに声かけできるように情報共有がとても大事。

平塚ロータリーは人数が多い

平塚南ロータリーが解散のため、そのメンバーにしっかり声かけよう

親睦などができない状況ではありますが、会員間のコミュニケーションをとりながら、情報交換していく必要があります。

多ければ良いということではなくて、クラブにとって適切な人数も大事。

例会に参加してほとんどの方を知っているということも大事。会員がどのくらいいたら、良いのかという目安があった方が良いでしょう。

○出席率向上について

現在の出席率は良くもないが、悪くもない

若い世代が増えてきているのでコロナ禍でそれぞれの会社も大変な時期なので、来れないことのあると思います。その後のフォローが大事。

現状のコロナ禍を考え、いつまで続くのか先が見えない状況です。しかしどんな状況であれ、例会を止めることなくやり続けていくことが何より大事なことでないかと

青グループ

グループ幹事：鈴木成一幹事

参加者：江藤博一/杉山昌行/
関口幸恵/高橋賢二/森 誠司



当初、ラスカのアマルフィにて開催の予定でしたが、なんと開催予定日からまん防の適用となってしまう、さらに丸茂会員も会社からの通達により参加が難しくなってしまったということで、まん防から逃げるように大磯での開催とさせていただきます。

天気も良く、会場からの海の眺めも清々しく、集会を始めることが出来ました。

集会テーマですが、まずコロナ禍での出席率向上につきましては、今般の規約改正によりリモート出席が可能となるということで、大変画期的な改革であると思います。

他方、会員拡大につきましては、まず解散される南ロータリーの会員で、まだ活動意欲のある方に声を掛けてみてはという意見が出ました。また、皆さんからたくさん

の候補者のお名前が聞かれました。独りで候補者を考えるより、このように実際に会って話しているからこそ、次から次へと名前が挙がるのだと幹事がお話されていて、おっしゃる通りだなと思いました。情報集会の常として、テーマ以外の話に肝があったりするわけですが、今回も発表できないトークを存分に楽しむことが出来ました。早くコロナが終息し、このような機会をもっと多く、自由に持てる世の中が戻って来て欲しいと思います。

以上です。

紫グループ

グループ幹事：相山洋明幹事
参加者：鳥山優子会長／牧野國雄／三荒弘道／高橋建二／宮下幸雄



【現在の環境の把握】

*コロナになっても出席率は下がっていない。これは平塚RCが誇るべき事。

役員の方々のこまめな発信や努力の賜物

*オンライン開催は良い面がある一方、一方通行的になりロータリーの良さが活かせない。小規模でもリアルに集まってやれるような実施方式を考えるべきではないかと思う。

*地区の66クラブ全体としてはコロナ禍においても会員数は減っていない。むしろ開始時から30名ほど増えているので、コロナ禍でも増強しているクラブがある。ただ年度切り替わりの6月で若干減る可能性はある。少数精鋭という考え方もあるが、大勢で交わることでメリットもあり、そこを追求していくべきだと考える。RCのメリットは楽しさや参加するとタメになる、ということだと思う。

【会員拡大】

既存会員の子息へのアプローチが有効ではないか？
親しい人に対しては、ダイレクトに携帯電話を使ってアプローチしてはどうか？

なおその際、例えば親子で入会する場合は会費の割引などを検討することを提案したい。

鳥山会長からは、年度初めにIT関連や士業（弁護士など）など、これまで平塚RCに足りていない職種へのアプローチを考えていたが、コロナもありなかなか進まなかった。

「ロータリーってどんなところ？」が解るようなかわら新聞のような物を作り、会員拡大の資料として活用するのはどうか？

プログラム委員会が外部の方に卓話を依頼する際、スピーカーにアプローチを工夫し、この人選によって会員拡大できないか。

外部のゲストやオブザーブについて、気軽にお試し参加ができるようにオープン例会を実施してはどうか。

【出席率の向上】

今年度は鳥山会長、江藤幹事の取組みのおかげで、出

席率が高い。毎回の鳥山会長のメッセージはとても有意義なものだ。コロナでも楽しさがあれば、出席率もあがると思う。

何が楽しいかといえば、みなさんとお会いして、ゴルフや仕事など、あらゆる面でお話しできることに尽きる。

出席して顔を覚えていただき、先輩方に声をかけていただくといったことは大変うれしく、ロータリーに参加する価値だと感じられる瞬間なので、例会時に先輩方と話す機会を作れば出席率向上に繋がり、またそれが魅力や売りとなり会員拡大にもなると思う。

フリーに話せる時間の設定は良いアイデアだ。その際、たとえば新入会員の座席はランダムにするなどの配慮をしてあげる必要があるだろう。また今は12:15から食事時間のため、フリーでの会話の時間が作れないのが実態だ。食事時間の設定の見直しもアイデアになるだろう。

横浜RCであれば、例会前のひとときに商談が決まるなど、フリー会話ができるタイミングがある。伝統クラブは時間の使い方、メリハリがはっきりしている。結果として出席率も良くなる。

幹事報告

◎ロータリー財団より「END POLIO NOW」への一人\$40の寄付金への感謝状をクラブへ頂きました。

これはポリオ撲滅活動に少なくとも\$1,500を寄付したクラブへ贈られる感謝状です。

皆様のご協力に感謝いたします。

◎平塚RCがスポンサーとなります平塚北RCが創立50周年の記念式典を6月5日(土)にホテルサンライフガーデンにて開催いたします。

鳥山会長がご出席されます。

◎先月の理事・役員会でメーキャップについて議論されました。

このコロナ禍という状況下でメーキャップがなかなか受け入れられないクラブがありますので、この1か月間に限り、14日間という枠を超えてのメーキャップを認めることといたします。

平塚北RC創立50周年 植樹の桜



平塚北RCホームページより

委員会報告

○雑誌委員会 委員長 青山紀美代

ロータリーの友 6月号
(総合ページ)

・P18 台湾 近いうちにきっと会える

台北東海RCのマスク例会が紹介されました。当該クラブは日本語で例会を行う親日クラブで平塚RCにとって深い繋がりがあります。初代会長・徐重仁さんは米山奨学生として45年前の1976～77年に当平塚RCが世話クラブとなり早稲田大学大学院を卒業されました。帰国後、台湾にセブンイレブンを上陸させ経済の発展に貢献した「台湾の流通の父」であり、台湾米山学友会の初代理事長でもあります。2018年10月の地区大会で講演もいただきました。

・P56 SDGs 看板設置

第2780地区の本厚木RCが国道交差点にSDGsの大型看板を設置し持続可能な社会の実現に積極的な活動がされています。

・P58 私の宝物

今月はビクター製のジュークボックスが紹介されています。会員皆さまもご自身の宝物、ぜひ教えてください！



青山 雑誌委員会委員長よりロータリーの友について案内がありました



米山奨学生のアン君



ポール・ハリスフェローと米山記念奨学会よりの表彰を鳥山会長より受け取られた三荒会員・柳川会員・秋山会員



ポール・ハリス・フェローとは、ロータリー財団に1,000米ドル以上の寄付をした人、または名義人を称える認証です。

ポール・ハリス・フェローの認証は、1957年、当時唯一の財団プログラムであり、国際親善奨学金の前身となった「Rotary Foundation Fellowships for Advanced Study (高等教育のためのロータリー財団フェローシップ)」への寄付に対する謝意を示し、さらなる支援を向上させるために設立されました。

今週のお祝い

誕生日祝い・・・片野之万会員
結婚祝い・・・原田篤志会員

メークアップ (MUP)

4名

秋山智会員、浅野康会員、常盤卓嗣会員、山口紀之会員

本日のスマイル

24名+5情報集会グループ

ゲスト

1名

米山奨学生 ブイ・スアン・アンさん

ビジター

0名

卓話・行事予定

6月10日(木) 会長卓話
6月17日(木) 新会員歓迎例会
6月24日(木) 休会

市内例会変更

現在ございません

